

あやべ澄子 衆議院北関東 比例予定候補 さん、村上村長と懇談

23日、オバマ大統領あて書簡と返信について、日本共産党村議団とともに



左から、村上村長、あやべさん、
大名、川崎議員

あやべ澄子衆議院比例予定候補は、6月23日、東海村役場を訪れ党村議団とともに村上達也村長と核兵器廃絶の問題や村政などについて懇談しました。

村上村長はオバマ大統領の演説について、「びっくりした。勇気があることだ。暗殺されてしまうのではないかと心配したくらい」と、歓迎の意を示しました。東海村は、今年になってから、広島・長崎の市長がよびかけた「平和市長会議」の趣旨に賛同し、名前を連ねたとのこと。10年前の「臨界事故」には広島市のみなさんから心配の声や激励が寄せられたといいます。

村長は、「平和と福祉・教育を大事にすること」や「非正規労働者をなくす」ことを強調しました。そして、「議会答弁でも述べたが、共産党は、派遣労働の問題などでもいち早くとり組み、よくやっていると感じている」、「憲法9条はなくしてはならない。11条、13条、25条とともに」など、村政の責任者として大変重要な視点について語りました。

あやべさんは、「政治の責任は、住民一人一人が安心して暮らせる環境を整えること。今後ともがんばります」と、決意を述べ、懇談を終了しました。

東海村が平和市長会議に加盟

1982年の第2回国連軍縮特別総会において、当時の広島市長が、「世界の各都市が国境を超えて連帯し、ともに核兵器廃絶への道を切り開こう」と提唱し、翌年広島市・長崎両市長から世界各国の市長に最初の呼びかけが行われたことが平和市長会議の始まりです。

この呼びかけによって、1985年、第1回世界平和連帯都市市長会議が開催されました。2001年には、会議の名称を「平和市長会議」に変更し、活動を進めています。

東海村は今年3月、県内で7番目の加盟です。老朽化した原子炉の延命化など無謀な原子力推進政策のもとで、「人工的に発生するプルトニウムの余剰保持は国際公約に違反だ」などという口実で、危険きわまりないプルサーマル計画が打ち出されています。

こうしたなかで、本村が核兵器廃絶を求める平和市長会議に加盟した意義はきわめて大きいと考えます。ともに力をあわせたいと思います。

平和市長会議のホームページ

村政報告会のお知らせ

とき 7月12日(日)
午前10時～12時
ところ 中丸コミセン会議室

6月議会が終わりました。

今議会も、住民の暮らし・福祉は充実されたか、派遣切り・非正規切りへの対応は十分か、新型インフルエンザへの対応はどのようかなど、重要な課題がありました。ご報告をいたします。

ぜひ、お誘いあわせてご参加くださいますようお願いいたします。